

平成24年度 特色ある学校づくり推進事業報告書

『認め合い、心地よい人間関係を築くことができる子どもの育成』

あま市立甚目寺東小学校

1 目的

人権尊重の精神に基づき、人権感覚を磨き、人の痛みの分かる豊かな感性を培うと共に、人権が尊重される学校づくりに向けた具体的な態度や行動がとれる児童の育成を目指すことを目的とする。

2 内容

(1) 人権タイム

毎月1回、全クラス、「人権タイム」を設定し、3～6年までの児童は、「やくそくノート」を活用しながら、ソーシャルスキルトレーニング等を通して、コミュニケーションスキルを身に付けるための学習活動を行う。

(2) 異学年交流のためのふれ合い活動

毎学期1回、1年と6年、2年と5年、3年と4年といったように、2つの学年がペアになって、交流活動を行うことで、上の学年は下の学年をいたわったり、下の学年は上の学年に感謝の気持ちをもったりする等、相手の立場に立った人間関係づくりを学ぶ。



【ふれあいチャレンジ大会】

(3) 教育相談

年に2回、hyper-Q-U検査を行い、それを基に学級担任が、クラスの児童一人一人と教育相談を行い、児童の気持ちや悩み等に気付くことで、児童の心に寄り添う。

(4) hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

定期的に講師を招き、Q-U検査アセスメントの仕方、エンカウンター等の実技研修を通して、学級の実態を客観的に把握し、分析した上で、学級をより良い方向に導くための方法を教師が学ぶ。

(5) 外部講師の活用による人権感覚を養い豊かな心を育てる授業

- ①小笠原英司先生による授業・・・人権意識を養う
- ②刷毛の先生による授業・・・正しい勤労観・職業観を養う
- ③津島天文クラブによる星空観察の会・・・豊かな心を育む

3 評価

(1) 人権タイム

月に1度の人権タイムにおいて、人との関わり方、スムーズに人間関係を築ける技術（ソーシャルスキルトレーニング）を「やくそくノート」を使って学んだ。これにより、自分の気持ちを言葉で表せる児童が増え、トラブルが減りつつある。

(2) 異学年交流のためのふれ合い活動

1年と6年、2年と5年、3年と4年の異学年でペアをつくり、主に高学年児童が考えたゲームを行った。この交流活動を行うことで協力して活動しようとする姿勢、思いやり、譲り合いの精神を養うことができた。

(3) 教育相談

hyper-Q-U検査を実施し、それを基に担任が児童一人一人と教育相談を行った。いじめの早期発見の機会にするとともに、個々の悩みについてアドバイスを行った。この取組は、児童が学校生活不適応に陥ることなく登校できている状態につながっている。

(4) hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

名城大学の杉村秀充先生を講師に招き、児童一人一人の学級への満足度を測るhyper-Q-U検査に関する説明、検査結果の見方(アセスメント)とその対応の仕方についてのノウハウを教えていただいた。学級の児童への接し方、生かし方等について学び指導力の向上に役立った。

(5) 外部講師の活用による人権感覚を養い豊かな心を育てる授業

ア 小笠原英司先生による授業(5・6年生対象)・・・人権意識を養う

体育館で小笠原博士の偉業について学ぶとともに正しい知識をもたないことからくる差別について考える機会を持った。その中から、誰もが幸せに生きる権利をもちそれを侵害することは許されないという態度を養った



【ハンセン病に関わる差別について学ぶ】

イ 刷毛の先生による授業(3年生対象)・・・正しい勤労観・職業観を養う

日本の中でも有数な刷毛の生産地である甚目寺地区で、実際に刷毛を作っている方々から、刷毛の歴史・作り方・働くことの苦楽についての話をきき、正しい勤労観・職業観を養った。

ウ 津島天文クラブによる星空観察の会(4年生対象)・・・豊かな心を育む

星を観察する会で講師の先生から、星についての話を聞いたり、実際に土星や火星や月を天体望遠鏡で観察したりした。子どもたちに自然の美しさ、雄大さ、神秘性を感じるこの体験を通して、子どもたちに豊かな心を育んだ。

4 課題

「自分を大切にすると同様に他人を大切にできる」、「人の立場に立って物事を考えられる」という目標を掲げ、人権が尊重される学校づくりに向けて取り組んできている。児童の中には、知識としてこれらのことが理解できていても、まだまだ十分な実践力が身につけているとはいえない。今後も、地道な指導の積み重ねに取り組んでいきたい。